



| | |
|--------------|---|
| Title | 大阪大学オープンサイエンスシンポジウム：オープンサイエンス時代の研究基盤と人材育成：日本における実装と展望 |
| Author(s) | Ganguly, Raman; Gergely, Éva; 富浦, 洋一 et al. |
| Citation | |
| Version Type | VoR |
| URL | https://doi.org/10.18910/101962 |
| rights | |
| Note | |

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

大阪大学オープンサイエンスシンポジウム オープンサイエンス時代の研究基盤と人材育成 —日本における実装と展望—



大阪大学
公式マスコットキャラクター
「ワニ博士」

趣 旨

研究データの管理とオープンサイエンスの推進には、技術的な基盤とそれを支える人材の双方が不可欠である。本シンポジウムでは、日本および欧州の大学における先進的な研究データ基盤の構築事例、ならびに人文学領域におけるデジタル技術活用の専門知見を共有し、今後の日本におけるシステム基盤のあり方と人材像を議論する

プロ グ ラ ム

司会 甲斐尚人(大阪大学D3センター)

13:00-
13:10

開会挨拶

尾上孝雄(大阪大学理事・副学長・オープンサイエンス推進室長)

13:10-
13:50

基調講演:「PHAIDRAと欧州研究データ基盤における持続可能性とコスト構造(仮)」

Raman Ganguly(University of Vienna, Computer Center, IT Support for Research)

Éva Gergely(University of Vienna, Computer Center, IT Support for Research)

13:50-
14:10

講演1:「九州大学における研究データ管理基盤と人的支援」

富浦洋一(九州大学データ駆動イノベーション推進本部)

14:10-
14:20

休憩

14:20-
14:40

講演2:「オープンサイエンスを加速する大阪大学の計算基盤・データ基盤の現状と課題」

伊達 進(大阪大学D3センター)

14:40-
15:00

講演3:「デジタル人文学におけるIIIF・TEIと大容量データ活用(仮)」

吉賀夏子(大阪大学人文学研究科)

15:00-
15:45

パネルディスカッション:「未来を拓く研究データ基盤と支援人材像(仮)」

モデレータ : 甲斐尚人(大阪大学D3センター)

パネリスト : Raman Ganguly(ウィーン大学コンピューターセンター)

富浦洋一(九州大学データ駆動イノベーション推進本部)

伊達進(大阪大学D3センター)

吉賀夏子(大阪大学人文学研究科)

15:45-
15:55

閉会挨拶

春本 要(大阪大学D3センター副センター長)

2025年5月16日(金)13時~16時

【開催場所】大阪大学附属図書館6F図書館ホール(豊中キャンパス) & オンライン

【参加費】無料

【申し込み】<https://forms.office.com/r/stB4Fqx55S>

締切: 2025年5月14日(水)17時

主催: 大阪大学オープンサイエンス推進室 共催: 九州大学データ駆動イノベーション推進本部 研究データ管理支援部門

お問い合わせ: 大阪大学オープンサイエンス推進室(甲斐) E-mail:kai.n.lib@osaka-u.ac.jp

大阪大学オープンサイエンスシンポジウム オープンサイエンス時代の研究基盤と人材育成 —日本における実装と展望—



Raman
Ganguly

University of Vienna
Computer Center

ウィーン大学コンピュータセンター・研究支援IT部門長。ソフトウェア開発およびメディア技術の専門家であり、デジタルデータのアーカイブやリポジトリの開発に従事。ウィーン大学のオープンソース型データリポジトリ「PHAIDRA」の技術責任者を務めるほか、研究データ管理およびオープンエデュケーションを推進する国内の主要プロジェクトも牽引。モジュール型のシステム構築と、利用者中心のデータ表現を、現代的なIT基盤の構築における重要な要素と位置づけている。

ウィーン大学コンピュータセンター・プロジェクトマネージャー。比較文学および情報技術を専門とし、研究データ管理に関する国内連携プロジェクトや各種イニシアチブの運営に従事。また、ウィーン大学のデータリポジトリ「PHAIDRA」において、ユーザー要件の調整や開発のコーディネートも担当。

Éva
Gergely



University of Vienna
Computer Center



富浦
洋一

九州大学データ駆動イノベーション推進本部

九州大学大学院システム情報科学研究院情報学部門、教授。
データ駆動イノベーション本部研究データ管理支援部門、部門長。
2016年4月から2023年3月の間、附属図書館副館長を務める。2018年附属図書館長の指示により研究データポリシー草案の策定に取り組み、これを契機として、研究データ管理支援部門の設置や運営に携わる。

大阪大学D3センター 先進高性能計算基盤システム研究部門 教授。
2002年大阪大学大学院工学研究科情報システム工学専攻博士後期課程修了。工学博士。2002年大阪大学大学院情報科学研究科助手。この間(2005年2月から9月まで)、米国カリフォルニア大学サンディエゴ校客員研究員。2005年大阪大学大学院情報科学研究科特任助教授。2007年大阪大学大学院情報科学研究科特任准教授。2008年大阪大学サイバーメディアセンター准教授。2023年大阪大学サイバーメディアセンター教授、現在に至る。

伊達
進



大阪大学D3センター



吉賀
夏子

大阪大学人文学研究科

大阪大学大学院人文学研究科 准教授。佐賀大学大学院にて農学修士、理学修士、博士(学術)を取得。17年間にわたり佐賀大学の学術情報および歴史文化関連部局にて、技術補佐員、研究員・講師などを務め、研究支援や佐賀地域の歴史に貢献するデジタルアーカイブ構築に従事。2023年より現職。現在はデジタルヒューマニティーズ教育に重点を置きつつ、歴史文書の読み解きを情報学の立場から推進する研究を行っている。また、大阪大学グローバル日本学教育研究拠点デジタル日本学部門の兼任教員、ならびに国立歴史民俗博物館の共同研究員も務めている。専門は情報学、デジタルヒューマニティーズ(人文情報学)。